

近現代建築史

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：古代から現代へと至る建築の歴史の中で、建築理論や建築様式、建築形式、ビルディングタイプ、ランドスケープといった様々な類型や規範は、それぞれの時代の美意識や社会状況と密接に結びついて形成されてきている。本講義では、現代の建築理論がどのように形成されてきたかを特に空間と機能の概念が明確に意識化された近代建築およびランドスケープを通して理解し、近代の建築的営みを継承し、発展してきた現代の建築物、建築理論、都市環境の今後の進むべき道を考察する。

■**到達目標**：①近現代の建築の変遷が建築理論、様式によって理解できること。
②近代以前から近代へと至る建築史の変遷が理解できること。
③現代の建築理論と建築形式の特徴を理解し、建築の批評が行えること。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎金子 晋也・羽深 久夫・山田 良・小澤 丈夫・中渡 憲彦・武田 明純・池上 重康

■**授業計画・内容**：

I 文化と技術の変容と近代建築の形成

1. 近代化と空間デザインの歴史
2. 新古典主義から新しい様式へ（アールアンドクラフト、ゼツセッション、ロシア構成主義、未来派など）
3. 合理主義の形成（ドイツ工作連盟、バウハウス、インターナショナルスタイル）
4. 近代建築と近代都市（コルビュジェ、ミース、ライトなど近代建築の巨匠）

II 建築周辺の空間の展開

5. 近代ランドスケープデザインの誕生（都市と自然）
6. アーバニズムと都市公園（都市の文脈）
7. アメリカンランドスケープ（巨匠の事例紹介）
8. エコロジカルランドスケープデザイン（エコロジーの文脈）
9. 参加型デザイン・コミュニティデザイン（コミュニティの文脈）

III 各地域における近現代建築の展開

10. アメリカの近現代建築
11. ヨーロッパの近現代建築1
12. ヨーロッパの近現代建築2
13. 日本の近現代建築1
14. 日本の近現代建築2
15. 世界の近現代建築

■**教科書**：適宜資料を配布するため、特定の教科書は使用しない。以下の参考文献等を利用するとよい。

■**参考文献**：『現代建築史』／ケネス・フランプトン著・中村敏男訳（青土社）
『20世紀建築の空間』／瀬尾文彰著（彰国社）
『現代建築の潮流』／ヴィットリオ・M・ランブニャーニ著・川向正人訳（鹿島出版会）
『近代建築史図集』／日本建築学会編（彰国社）
『テキストランドスケープデザインの歴史』武田史朗、山崎亮、長濱信貴編（学芸出版社2010）
『ランドスケープの近代』佐々木葉二、三谷徹、宮城俊作、登坂誠（鹿島出版社2010）

■**成績評価基準と方法**：授業態度及び出席状況（20%）、レポート（30%）期末試験（50%）により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○	用語の理解と内容の論説	50
レポート	○	○	◎	実際の建築空間における応用が理解できること	30
授業態度	○	○	○	授業への積極的な参加	20
出席	○	○	○	2/3以上の出席を必要とする。	

◎特に重視する、○重視する

■**関連科目**：デザイン史、空間デザイン史

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：現代の建築空間や都市空間の成立過程を学ぶことで、社会・地域・歴史とデザインの関連性に興味を持ち、批評性をもって望むことを期待する。空間デザインを専攻希望の学生は履修することが望ましい。